

時代の中で生きた聖フィリピン・デュシェーン

校長 Sr.大山 江理子

宗教行事と共に深まる秋の日々、10月の聖堂朝礼では皆でロザリオの祈りをしました。今月は聖フィリピン・デュシェーンの祝日に、ファーストステージ・セカンドステージそれぞれに祈りと講演会を行います。フランスからアメリカに聖心会を広げた聖フィリピン・デュシェーンに倣って、講演会で視野を広げます。

聖フィリピン・デュシェーンがアメリカで生活を始めた19世紀は、まだ奴隷制度が残っている時代でした。アメリカ先住民に対する考え方も現代とは異なります。過去のできごとを遡るとき、現代では様々な視点で見る事が求められます。アメリカの聖心会から毎月配信されるデジタルニューズレターHeartbeat 10月号に、ニューオリンズ近郊にある聖心のアーカイブの話題がありました。ニューオリンズの聖心 Academy of the Sacred Heart at Grand Coteau は、聖フィリピン・デュシェーンが創立に関わった歴史の古い学校です。ニューオリンズはアメリカの南部、聖フィリピン・デュシェーンたちがフランスから船旅をして上陸した港町です。アメリカの歴史を考えてみれば、南部の地域では当然推測されることですが、聖心の学校でも奴隷に関わっていたという事実があります。現代の聖心では、このことについて歴史をていねいに振り返り、誠実に接するという姿勢を示しています。今回のアーカイブの記事では、当時の聖心にあったとされる奴隷の人々が生活していた建物の3D 動画を見ることができます。以下の URL をご参照ください。

<https://www.youtube.com/watch?v=yNjdiu5ZhhA&t=7s>



↑
デュシェーンホールにある
生徒作成による聖フィリピン・
デュシェーンのモザイク

誰でも、時代の制限の中に生きています。聖フィリピン・デュシェーンの奴隷に対する理解はどのようなものだったのでしょうか。アメリカの先住民との出会いを目指して、フランスからアメリカという異なる文化の地に来て、黒人に接したとき、聖フィリピンはどのように考えたのでしょうか。人間の尊厳というものをどのように考えたのでしょうか。アメリカの聖心関係者にとっては大きな問いです。

聖フィリピン・デュシェーンが先住民の人々、ポトワトミ族の住む地、カンサス州 Sugar Creek に到着したときの様子を調べてみると、500人もの男の人たちが礼装として、色とりどりの毛織り布をまとい、羽根飾りをつけ、美しい刺繍の施されたモカシンを履き、顔は黒く塗り、目の周りを白くするという化粧をして出迎えたとあります。若いシスターはその光景を恐ろしげに感じたということですが、聖フィリピンはとも喜んで、長く見失われていた孫に出会った祖母のようにふるまい、部族の習慣に従って、一人ひとり全員と握手をして挨拶したということです。人々は歓迎のために馬術の披露もしました。聖フィリピンと3人の聖心会シスターたち、同行した2名のイエズス会司祭たちに対して、人々が最高の敬意を表したということでしょう。1841年の

ことでした。この後、聖フィリピンは人々と1年ほど生活し、祈りの姿をもって人々を感化しました。そして、残ったシスターたちのうち2人は亡くなるまでこの地にとどまって人々と生活を共にし、聖心会は Saint Marys というところで1879年まで学校を運営することになりました。シスターたちはどのように人ポトワトミの人々、子どもたちと接していたのでしょうか。

時代的にも、地理的にも、聖フィリピン・デュシェーンは私たちから遠い存在ですが、私たちがつながる人物がどのようにその時代を生きたのかと問いかけてみると、歴史を人ごとでなく、自分ごととして考えるよう促されます。聖フィリピン・デュシェーンの祝日には、子どもたちと共に思いを馳せて祈ります。

以下の URL で Heart beat の記事を見ることができます。

https://rscj.org/the-societys-collaboration-with-ncppt?bbeml=tp-I3p2Igb6L02cYsIOZKZE1w_j0YcSsHUsfkOWqww2mUbDrw_rrcPTSL2SIU-aHSaqHAc.jXw.lqk2NnPhs1k-3zuovcnFAqQ

個性を磨く

後期が始まり一ヶ月が経ちました。子ども達は各々に前期を振り返り、後期の目標を掲げて次の学年へ向け歩み始めています。学習の目標、生活の目標、今週の目標、今月の目標など、大小様々な目標を掲げて過ごすことで、意欲にもめりはりがつき心の成長を後押ししてくれます。

目標に掲げられることは様々ですが、子ども達が学校の目標にすることは「苦手なことを克服する」といったものが多い傾向にあります。うまくいっていないことをどう克服できるか考えていくことは、子ども達の自立に欠かせない力です。苦手を減らすこと自体も大切ですが、うまくいかないことに立ち向かっていこうとする心を養えることも大切です。しかし、そもそも子どもにとってうまくいっていないことを頑張るということはあまり楽しいことではありません。したことがないから心配、面白くない、やり方が実はよく分からない、こつが分からない、など何らかの壁がすでにありうまくいっていないため、意欲的にそのことに向き合うことは簡単ではありません。子ども自身が意欲的に課題に向き合えることが理想ですが、大人が子どもの壁を探り、何らかのサポートをすることが必要になってくる部分でもあります。

もうひとつ、目標の在り方として大切にしたいことが、「得意なことをもっと伸ばす」「好きなことをより深める」ということです。得意なことや好きなことに取り組むことは、子どもの集中力を磨き、興味関心を広げるよい機会になります。前者のように苦手を克服していくことと併せて、後者のように「好き」「得意」を磨き「個性」を伸ばすことも大切です。これから先、社会に出ていくために子ども達は「自分の力をどう社会に生かすか」ということと向き合っていくこととなります。そのためには、何かひとつのことにこだわって向き合っていく意志や、自分の個性の認知、そして自信が必要になります。そうした未来に向けて、初等科生という時期は色々な体験をして「自分は〇〇することが好き」「〇〇が得意」という自己理解が深まっていく大切な時期と言えます。

この後期は、子ども達は次の学年を意識して過ごす中でまた大きな成長を見せる時期です。子ども達が自分のできていないことに向き合いながらも、できていること、得意なこと、好きなことにしっかり向き合い個性を磨いていけるよう願っています。



児童立ち会い演説会



ウクライナ交流会



1st English Day



6年味覚の授業



11月の行事予定

1日(金)	初等科入試・家庭学習日	18日(月)	聖フィリピン・デュシェーンの祝日
3日(日)	文化の日	19日(火)	1st 聖フィリピン・デュシェーン祝日行事 放送もゆる交流
4日(月)	振替休日	20日(水)	5年英単語検定(4限)
5日(火)	1年・転編入生保護者会	21日(木)	聖心会創立記念日 6年進学説明会(親子・6限)
6日(水)	4年社会科見学	23日(土)	勤労感謝の日
13日(水)	2nd 聖フィリピン・デュシェーン祝日行事	26日(火)	6年まとめテスト②
14日(木)	一日学校参観日② 保護者講演会(3・4限)	27日(水)	作文発表会(1~3年・4限)
15日(金)	校内研修(4限まで授業、 4ゆりは5限まで)	29日(金)	作文発表会(3~6年・4限)
		※12月2日(金)	ハイチデー